

第4章 計画の目標を達成するための主要施策

4.1 計画の基本目標と主要施策

基本方針、基本目標を踏まえ、基本目標と主要施策の対応を以下に示します。

基本方針：交通モードの連携による生活の足の確保

基本目標 1：交通結節点の機能強化

- ① 鉄道駅の再整備
- ② 乗継改善

基本目標 2：町内の公共交通の見直し

- ③ 公共交通等の再編

基本方針：まちの元気の創出支援

基本目標 3：企業や地域活動との連携

- ④ 企業等との連携
- ⑤ 外出支援や地域活動との連携

基本目標 4：新技術の積極的活用による利便性向上

- ⑥ タクシー助成券の決済高度化に向けた実証
- ⑦ バス利用実績の収集・蓄積システムの構築
- ⑧ 新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

基本方針：人や地球への思いやり

基本目標 5：地球環境問題への取組の推進

- ⑨ モビリティマネジメントの実施
- ⑩ 環境へ配慮した行動の推進、設備の導入

基本目標 6：移動制約者に対する支援

- ⑪ 公共交通利用案内の充実
- ⑫ バリアフリー化の推進
- ⑬ 移動制約者へのタクシー料金助成の実施
- ⑭ 免許返納者への移動手段の提供

図 計画の基本方針、基本目標、主要施策

4.2 主要施策の内容

基本方針、基本目標の実現を図るための主要施策を以下に設定します。

施策①	鉄道駅の再整備	実施主体: 幸田町	関連する目標: 基本目標 I
<p>●施策の背景・必要性</p> <p>三ヶ根駅は、利用者数が微減傾向にあり、駅舎のバリアフリー化がなされていないなど、課題を有しています。幸田駅周辺では土地区画整理事業が行われました。今後においては幸田町の玄関口としてふさわしい中心拠点としての機能強化が求められています。</p> <p>本計画の直接的な上位計画である「幸田町都市交通マスタープラン」において、鉄道駅の再整備は「重点戦略」に位置付けられています。</p>			

●三ヶ根駅の整備

高齢者や障がい者の利用に配慮し、バリアフリーの考え方を踏まえた施設（エレベータ、多機能トイレ等）の設置を推進します。

●幸田駅の整備

幸田町の玄関口としてふさわしい中心拠点として、幸田駅周辺の土地利用やまちづくりと一体となった新しい交通結節点（橋上駅や駅前広場）の構築の検討を推進します。



資料: 幸田町資料



資料: 幸田町都市交通マスタープラン

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
三ヶ根駅の整備		駅前広場とトイレ改修の 設計・工事		調査・検討	
幸田駅の整備	三ヶ根駅の整備状況を踏まえながら、取組を進める				

施策②**乗継改善**

実施主体:幸田町

関連する目標:基本目標1

●施策の背景・必要性

鉄道利用者・町民アンケートにおいて、「駅との乗継を改善する」ことに対するニーズが高く仕事や学校へ向かう際の通勤・通学、帰宅時の移動での利用ニーズが存在することが想定されます。

鉄道利用者アンケートでは、駅に向かう交通手段としては「徒歩のみ」が卓越して多く、次いで自転車、自動車（自分で運転、自分以外が運転）が多い状況であることから、徒歩で駅にアクセスできる人しか駅を利用していないこと、駅アクセスに課題があることが想定されます。

●運行ダイヤの調整

えこたんバスの運行ダイヤの調整により、鉄道との乗継を改善し、駅へのアクセス性を高めます。

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
運行ダイヤの調整	検討	調整・モニタリング			

施策③

公共交通等の再編

実施主体：幸田町

関連する目標：基本目標2

●施策の背景・必要性

えこたんバスの利用者が少ないこと（えこたんバスの利用頻度について「ほとんど利用しない」と回答した人の割合は9割以上）、チョイソコこうたや藤田乗合直行タクシーの1人あたりの運営経費が高額である状況（チョイソコこうた：4,180 円/人、藤田乗合直行タクシー：12,546 円/人 ※令和4年度3月時点）を踏まえ、幸田町が運営する公共交通について、適切な役割分担・連携強化により、利便性の向上や効率化を進める必要があります。

えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシーのいずれも現在無料で運行しています。運賃の徴収による運行経費の確保や、地域間におけるバランス感の観点から、ある程度の受益者負担を求めることが必要と考えられます。

また、以前は幸田町内を名鉄バス路線が運行していた経緯から、町内から町外への移動手段として、名鉄バス路線の復活に対するニーズが一定数存在しており、必要に応じて幸田町外の隣接自治体への乗り入れについても検討する必要があります。

●えこたんバスの再編

えこたんバスのルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、運行本数を確保します。また、3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）へ移動手段となるバス路線について、町民の日常生活の移動手段の確保の観点からこれらの維持に努めます。

また、コミュニティバス（えこたんバス）の相互乗り換えが可能となるように、3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）の中間地点（ハッピーネス・ヒル・幸田等）への乗継拠点の設定について検討します。

●チョイソコこうたの改善・効率化

えこたんバスの再編と併せたエリアの見直し・追加について検討します。

●藤田乗合直行タクシーの改善・効率化

相見駅、幸田町役場以外に、新たな停留所の設定や、運行形態・ダイヤの見直し、空き車両のチョイソコこうたへの割り当てについて検討します。

●運賃の見直し

えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシーの有料化・料金体系について検討します。加えて、運賃の有料化に合わせて、公共交通間の乗継割引についても導入を検討し、乗継による運賃の割高感の緩和を図ります。

なお、有料化に際しては、有償化や4条運行に伴い、チョイソコこうたや藤田乗合直行タクシーだけでなく、えこたんバスについても運行委託が必要となることが想定されることから、昨今の運転手不足等の社会的な課題に留意しながら、取組を進めます。

●待合環境などの整備

公共交通等の再編後の利用状況を踏まえ、必要に応じて上屋・ベンチ等の待合環境等の整備を行います。

●隣接自治体への乗り入れ検討

自治体間での交流を促進するため、幸田町と隣接する自治体（岡崎市、蒲郡市、西尾市）への乗り入れについて検討します。

●車両の適正化（エコたんバス）

エコたんバスの車両更新の際には、利用状況を踏まえた上で、車両の小型化等について検討します。

●エリアスポンサーの導入（チョイソコこうた）

利用者数が多い企業停留所を中心に、エリアスポンサーへの協力の働きかけを行います。

●会員登録条件の検討（チョイソコこうた）

妊産婦等の移動制約者の方も、利用可能となるように会員登録の条件について検討します。

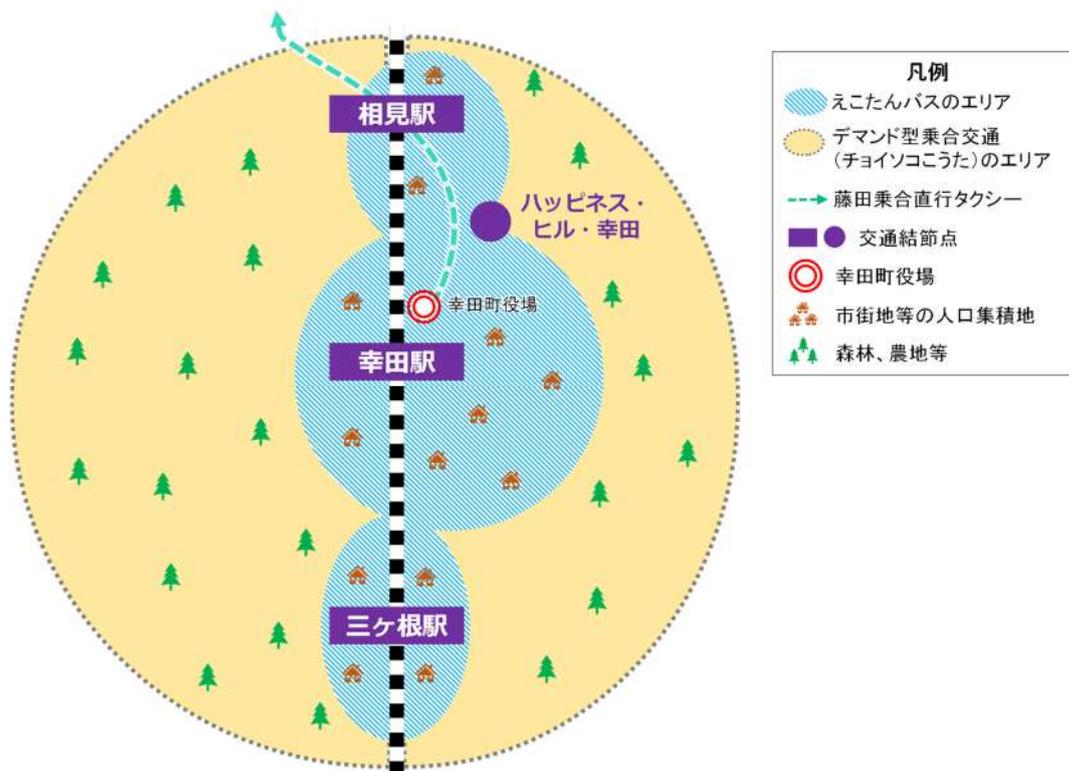


図 幸田町が目指す公共交通の将来像（再掲）

表 幸田町内の地域公共交通の位置づけ（再掲）

位置付け	系統	役割	確保・維持策
広域幹線	JR 東海道本線	幸田町と他地域を結ぶ広域交通軸	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保。
地域内幹線		幸田町内の居住地域や主要施設等を結ぶ地域内の基幹交通軸	
支線	エコたんバス	幸田町内の居住地域と鉄道駅や主要施設等を結ぶフィーダー交通	公共交通等の再編による利便性向上により、一定以上の需要を確保。 地域公共交通確保維持改善事業の活用も視野に検討。
	デマンド型乗合交通（チョイソコこうた）	エコたんバスを補完する交通	
専用軸	藤田乗合直行タクシー	幸田町と町外の総合病院を結ぶ専用交通軸	

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
三ヶ根駅の整備	駅前広場とトイレ改修の 設計・工事		調査・検討		
幸田駅の整備	三ヶ根駅の整備状況を踏まえながら、取組を進める				
運行ダイヤの調整	検討	調整・モニタリング			
えこたんバスの再編	検討	ルート再編、モニタリング			
チョイソコこうたの 改善・効率化	検討	エリアの変更、モニタリング			
藤田乗合直行タクシー の改善・効率化	検討	必要に応じて実施			
運賃の見直し	検討	見直し、モニタリング			
待合環境などの整備	候補箇所の検討		ルート再編後の利用状況を踏まえ、 必要な箇所に対して実施		
隣接自治体への 乗り入れの検討	候補箇所の検討		ルート再編後の利用状況を踏まえ、 必要な箇所に対して実施		
車両の適正化 (えこたんバス)	車両の更新に合わせて検討				
エリアスポンサーの導入 (チョイソコこうた)	企業スポンサー加盟への働きかけ、適宜導入				
会員登録条件の検討 (チョイソコこうた)	条件の検討・適宜変更				

施策④

企業等との連携

実施主体:幸田町、交通事業者、企業

関連する目標:基本目標3

●施策の背景・必要性

幸田町は、交通の要衝として多くの企業が立地しています。この幸田町の強みを活かす形で、企業との連携を高めることにより、より一層の公共交通の改善を図ることが重要です。また、えこたんバスの安定的な運営に向けて、運賃収入以外の運行経費の確保策についても検討することも重要です。

また、少子高齢化や2024年問題等により、運転手の確保が難しくなっています。

●バス停やバス車内への企業広告の設置

企業や地元の商店等と連携し、バス停やバス車内への広告の設置について検討します。

●輸送資源の活用可能性の検討

町内の企業と連携しながら、企業の送迎バス等の活用や、幼稚園送迎バスのスクールタイムへの活用の可能性について検討します。

●運転手確保に向けた支援

交通事業者の運転手確保に向けた取組に対するバックアップを検討します。



資料:大口町(大口町のコミュニティバスを考える)



資料:中津川市(合同企業説明会)

今年も運行します！

企業シャトルバスに地域の皆様も乗車できる、
湖西市企業シャトル「BaaS」
 令和5年(2023年)9月1日 運行開始！

企業シャトル BaaSって何？
 車に頼らなくても豊かな生活を送れるように、市内企業の協力のもと各社が運行するシャトルバスを地域の皆様が利用できる湖西市ならではの移動手段の仕組みです。

令和5年度の運行について
 今年度は、より地域の皆様に使いやすくご利用しやすいものにバージョンアップします。

■ **運行期間**
 令和5年9月1日(金)～令和6年1月31日(水)
 土日祝日、年末年始を除く
 ※ソニー線は、火・水・金曜日のみ運行(月・木は運休)

■ **料金と時刻**
 料金をわかりやすく・運行ダイヤも使いやすいものとします。

料金
 全路線 料金が1乗車100円になります。
 お得 Point
 回数券(11枚つづり1000円)を販売します。回数券をご購入いただくと、地域のお店で使えるクーポンが付いてきます！

時刻
 全路線 スマートフォンを使ってオンラインでチケットが購入できるようになります。(11月から)
 デンソー線 運行する区間・時刻を拡大します。朝夕夜間の通勤便については予約不要でご利用になれます。
 ソニー線 運行する区間・時刻を拡大します。
 浜名湖電鉄線 運行する区間・時刻を拡大します。

詳しくは裏面の路線図・時刻表をご覧ください

お問い合わせは・・・
 湖西市役所都市計画課
 電話 053-576-4560

湖西市 BaaS 公式
 ウェブページはこちら

利用者募集！！

湖西市
 企業シャトル BaaS

湖西市独自の取組にご協力ください！

資料:湖西市(企業シャトルバス BaaS(パース)について)

■ 施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
バス停やバス車内への 企業広告の設置	関係機関との調整		調整が整ったものについて、適宜実施		
輸送資源の 活用可能性の検討	検討・関係機関との調整		調整が整ったものについて、適宜実施		
運転手確保に 向けた支援	交通事業者と相談・協議の上で、必要に応じて実施				

施策⑤

外出支援や地域活動との連携

実施主体：幸田町、地域団体、名古屋大学 関連する目標：基本目標3

●施策の背景・必要性

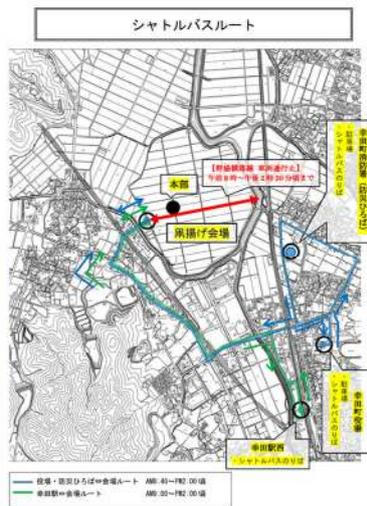
高齢者が、「外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由」として、「出かけた」と思える外出先が少ないからは 5 割近くを占めており、移動手段の確保は勿論のこと、外出をするキッカケ作りについても課題が存在しています。

●祭事やまちづくりイベントとの連携

町内で開催する催し物や地域活動の際に、会場への移動手段としてえこたんバスの活用（臨時便の運行や、来訪者へのえこたんバス利用の案内等）や、公共交通を利用して会場へ来訪した人へのインセンティブの導入の可能性を検討します。

●坂崎コミュニティライドの社会実装、横展開の検討

坂崎区と取組を進めている坂崎コミュニティライドについて、関係各課や名古屋大学、地域団体と連携しながら、社会実装を進めます。また、地域組織からの要望があった際には、取組内容や幸田町からの支援の紹介を行います。



資料：幸田町 HP

資料：広報こうた（2023.9.1）

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
祭事やまちづくり イベントとの連携	連携した取組について、適宜実施				
坂崎コミュニティライドの 社会実装、横展開の検討	社会実装	地域からの発意に応じて、横展開を実施・検討			

施策⑥

タクシー助成券の決済高度化に向けた実証

実施主体：幸田町、タクシー事業者

関連する目標：基本目標4

●施策の背景・必要性

幸田町では、高齢者向けにタクシー乗車料金の一部を助成する「タクシー料金助成制度」を設けていますが、助成券の持ち運びや事務処理作業に要する労力が利用者やタクシー事業者の負担となっています。

●タクシー助成券の決済高度化に向けた実証

ICカードを活用した助成決済の高度化に向けた取組を進めます。

【企画提案書概要版】

<p>高齢者移動支援施策（タクシー料金助成制度）の高度化に向けた実証 ～高齢者が生き生きと暮らし続けられる地域づくりを目指して～</p>	<p>（仮称）幸田町移動支援ICT活用推進協議会 構成団体 ・幸田町 ・中宮クラビス(株) ・（一社）ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構</p>
---	---

地域課題

- 本町では高齢者数、高齢化率が増加傾向にある。民間路線バスの廃止等により公共交通が十分でない地域が多く存在し、免許返納者も増加していることから、「高齢者が日々楽しみや生きがいを持ち、生き生きと暮らし続けられる地域づくり」のため、また要介護者の増加や医療費・介護給付費の増加を踏まえ、**高齢者外出支援・促進策の確立が急務**となっている。
- こうした背景から、本町では高齢者向けにタクシー乗車料金の一部を助成する「タクシー料金助成制度」を設けているが、下記の通り、**利用者やタクシー事業者の負担軽減、データを活用したより良い制度設計の必要性**が生じている。

タクシー料金助成制度の課題

- 利用者の負担が大きい**
紙の助成券の持ち運び・管理、精算時の必要事項記入、年度ごとの更新申請等が負担になっており、利用率が低迷。
- タクシー事業者の負担が大きい**
町との助成料金精算等に関する事務処理作業の負担が大きい。制度利用者の増加に伴い、負担は増加傾向。
- データに基づく制度改定ができていない**
これまで、利用者からの要望に応え制度改定を言われてきているが、利用データが取得・分析できていないため、根拠に基づく制度改定や効果の検証ができていない。

実証内容

利用者モニターに専用のICカードを付与。タクシーに搭載するスマートフォン等にかざすことで助成決済が行われ、利用データが自動収集されるシステムを構築。また、現行制度とは異なる制度を実証用に用意。利用者モニターおよび協力タクシー事業者に一定期間利用いただき、下記項目について調査・検証を行う。

- 利用者・タクシー乗務員の受容性、利便性向上効果。**
- タクシー事業者の負担軽減効果。**
- 利用者の行動が現行制度と比較してどう変化するか。より使いやすく、外出促進効果の高い制度はどのようなものか。**

<実証スキーム（イメージ図）>



資料：幸田町資料

■施策のスケジュール



施策⑦

バス利用実績の収集・蓄積システムの構築

実施主体：幸田町、名古屋大学

関連する目標：基本目標4

●施策の背景・必要性

えこたんバスのバス停別の乗降実績を継続的に取得・蓄積する仕組みは現在実装されておらず、効果検証に必要な基礎データが不足しています。バスサービスの継続的な改善に向けた仕組みの導入が必要です。

●バス利用実績の収集・蓄積システムの構築

バス利用者数の計測ができる仕組みの導入を名古屋大学と共同で進めます。取得したバス停の乗降実績は、バスの現況分析や再編計画（ルート検討やバス待ち環境改善等）を行うための基礎データとしての活用を想定しています。

計測のポイント

- ボタンをドライバーが押して、人数をカウント
- センサはGPSに連動しており、ドライバーがボタンを押すタイミングで、位置情報を取得し、バス停を特定することが可能で、便別・バス停別での乗車人数、降車人数が把握できる

※データはサーバー上に蓄積され、カウンタにも表示される仕組み

- センサに装着されているGPSデータはバスロケーションシステムにも活用

（注意）どこで乗った・降りた（OD）まではわかりません。



運転席横に、センサを設置 （電源はシガーソケットから24Vを確保）



運転席横に配置
（ドライバーにも相談済み）

資料：名古屋大学資料

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
バス利用実績の 収集・蓄積システムの構築	システム構築	モニタリング			

施策⑧

新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

実施主体: 幸田町、名古屋大学

関連する目標: 基本目標4

● 施策の背景・必要性

本計画の直接的な上位計画である「幸田町都市交通マスタープラン」において、自動運転の実証実験の推進が「重点戦略」に位置付けられています。近年の新たなモビリティサービスに関する動向も踏まえながら、自動運転だけでなく、MaaS やスマートシティ等も視野に入れながら、継続的な技術研究を行うことが必要です。

● 新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

自動運転の実証実験や幸田町版 MaaS の開発、ドローンの活用、貨客混載など、新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究を行います。



資料: 幸田町資料



資料: 国土交通省(日本版 MaaS の推進)

■ 施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究	システム構築				

施策⑩

環境へ配慮した行動の推進、設備の導入

実施主体:幸田町

関連する目標:基本目標5

●施策の背景・必要性

地球環境問題への対応といった観点から、公共交通機関の利用促進や電動車両の導入など環境負荷の少ない交通対策の推進が必要です。

●環境に配慮した車両の導入検討

車両の更新時期に合わせて、EVバス等の環境に配慮した車両の導入可能性について検討します。



資料:日野自動車(ニュース・お知らせ 2021年)

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
環境に配慮した車両の 導入検討	車両の更新に合わせて検討				

施策①

公共交通利用案内の充実

実施主体：幸田町、名古屋大学

関連する目標：基本目標6

●施策の背景・必要性

現在、えこたんバスについては、バスの遅延や通過等のリアルタイムでの情報提供は行われていません。また、ルートが複雑であることから、利用者目線での分かりやすさに配慮した情報提供の拡充が必要です。

また、公共交通等の再編や新たなシステム導入と併せて、公共交通の運行情報等の周知促進についても粘り強く実施する必要があります。

●バスロケーションシステムの導入

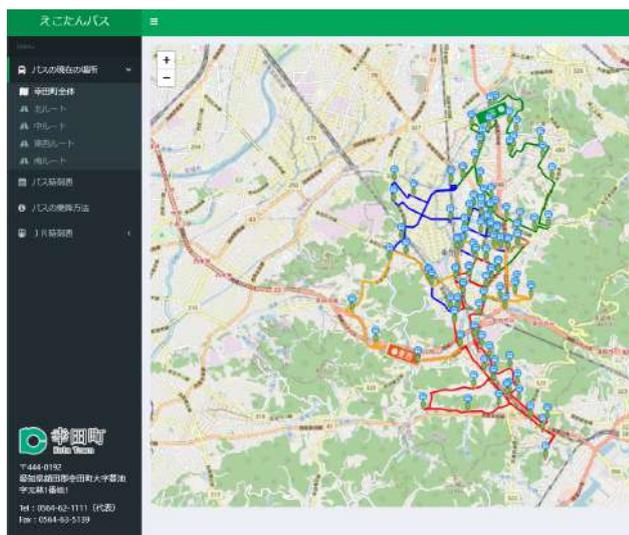
えこたんバスのリアルタイム情報が確認できるサイトの構築を行います。

●公共交通のPR

町の広報誌やホームページの活用し、公共交通の運行情報や利用による効果、公共交通施策の実施状況、公共交通の使い方に関する情報などのPRを行います。



資料：幸田町（広報こうた）



資料：名古屋大学資料
(バスロケーションシステムの公開ページ(開発中画面))

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
バスロケーションシステムの導入	導入	モニタリング			
公共交通のPR	再編前PR		再編後PR		

施策⑫

バリアフリー化の推進

実施主体:幸田町

関連する目標:基本目標6

●施策の背景・必要性

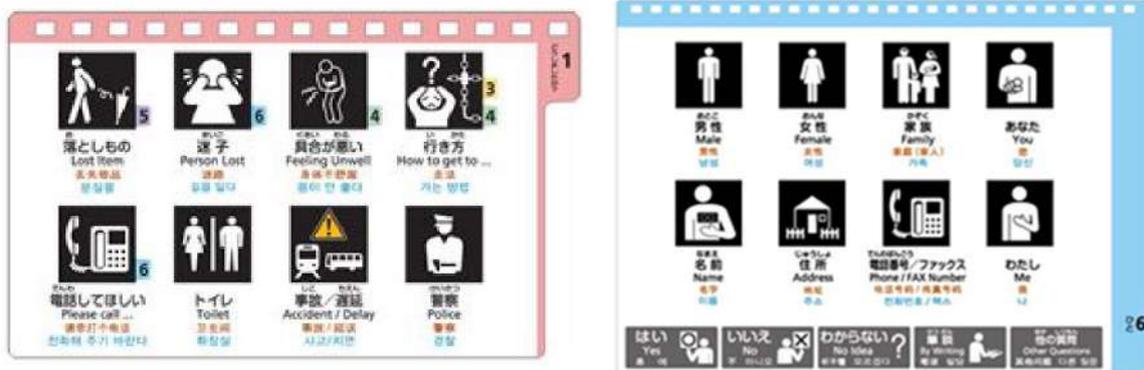
障がい者団体ヒアリングにて、幸田町内の公共交通に関する問題として、三ヶ根駅は「エレベーターが無いから足が悪い人は大変」との指摘が多くなされています。また、緊急時の対応といった点で、「バスの運転手の方が、耳が聞こえない人に対して、最低限の対応ができるかどうかも重要だと思う。例えば、伝言ボードのようなものがあれば良いかなと思う。」といった指摘もあり、バリアフリー化の面で改善すべき課題が残されています。

●三ヶ根駅の整備【再掲】

高齢者や障がい者の利用に配慮し、バリアフリーの考え方を踏まえた施設（エレベータ、多機能トイレ等）の設置を推進します。

●筆談ボードの設置

聴覚障がい者の方等が安心して公共交通を利用できるように、えこたんバスやチョイソコこうた、藤田乗合直行タクシーに対して、目で見えてわかる情報として、筆談ボードの設置を進めます。



資料:公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団(コミュニケーション支援ボード紙版一)

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
三ヶ根駅の整備【再掲】	駅前広場とトイレ改修の 設計、工事		調査・検討		
筆談ボードの設置	記載内容の検討、設置				

施策⑬**移動制約者へのタクシー料金助成の実施**

実施主体:幸田町

関連する目標:基本目標6

●施策の背景・必要性

幸田町では、2種類のタクシー助成事業（福祉タクシー料金助成事業、在宅高齢者外出支援タクシー利用助成事業）を行っていますが、配布したタクシーチケットの利用率について課題が存在しています。また、障がい者団体ヒアリングにて、福祉タクシーチケットを余暇的な移動で使うことに対する遠慮が存在していることが指摘されています。

●タクシー料金助成の継続

町民の移動手段確保の観点から、タクシー料金助成の継続を行います。

●福祉タクシーチケットの利用に関する PR

余暇的な使い方含めて、福祉タクシーチケットの使い方の PR を行います。

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
タクシー料金助成 の継続	料金助成の継続				
福祉タクシーチケットの 利用に関するPR	利用のPR				

施策⑭

免許返納者への移動手手段の提供

実施主体:幸田町

関連する目標:基本目標6

●施策の背景・必要性

近年では社会的な潮流として、高齢者等の運転免許自主返納に関する流れが加速しており、自動車の運転ができなくなった人(難しくなった人)が、安心して免許を返納できる環境を整備していくことが必要です。

幸田町が運営する公共交通(えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシー)においては、将来的な運賃の見直し(有料化等)を予定していますが、運賃の見直しの際には、運転免許返納者に対する運賃の割引や無償化等についても検討する必要があります。

●運転免許の自主返納者の促進

幸田町が運営する公共交通(えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシー)の運賃の見直し後の状況を踏まえながら、運転免許の自主返納者に対する優遇措置(運賃の割引や無償化等)の検討を行います。また、免許返納者に対する公共交通の利用案内に関する冊子の配布等についても検討します。



資料:警視庁(高齢者運転免許自主返納サポート協議会加盟企業・団体の特典一覧)

■施策のスケジュール

	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度～ (2028～)
運転免許の 自主返納者の促進			<div style="background-color: #00a651; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 有料化後の動向を踏まえて、 優遇措置を検討・実施 </div>		

4.3 基本目標の達成状況を測るための指標

基本目標の達成状況を測るための「成果指標」と、事業の進捗状況をモニタリングするための「確認項目」を以下のとおり設定します。

基本方針：交通モードの連携による生活の足の確保

基本目標 1：交通結節点の機能強化

- ① 鉄道駅の再整備
- ② 乗継改善

基本目標 2：町内の公共交通の見直し

- ③ 公共交通等の再編

性質	数値指標
成果指標	公共交通の満足度
	公共交通の利用者数
確認項目	3駅のバス便数
	運行に伴う行政負担額
	収支率
	利用者一人当たりの費用

基本方針：まちの元気の創出支援

基本目標 3：地域開発、地域活動との連携

- ④ 企業等との連携
- ⑤ 外出支援や地域活動との連携

基本目標 4：新技術の積極的活用による利便性向上

- ⑥ タクシー助成券の決済高度化に向けた実証
- ⑦ バス利用実績の収集・蓄積システムの構築
- ⑧ 新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

性質	数値指標
成果指標	公共施設の利用者数
	定住意向
確認項目	企業と連携した取組の件数
	地域主体の取組の件数
	システムの実装件数

基本方針：人や地球への思いやり

基本目標 5：地球環境問題への取組の推進

- ⑨ モビリティマネジメントの実施
- ⑩ 環境へ配慮した行動の推進、設備の導入

基本目標 6：移動制約者に対する支援

- ⑪ 公共交通利用案内の充実
- ⑫ バリアフリー化の推進
- ⑬ 移動制約者へのタクシー料金助成の実施
- ⑭ 免許返納者への移動手手段の提供

性質	数値指標
成果指標	高齢者福祉に関する満足度
	障がい者福祉に関する満足度
確認項目	モビリティマネジメントに関する取組の件数
	広報誌での公共交通のPR件数
	タクシー料金助成の利用者数

図 基本目標の達成状況を測るための指標

基本方針:交通モードの連携による生活の足の確保

基本目標 1 : 交通結節点の機能強化

鉄道駅の再整備や、交通モード間の乗継改善を行うことで、交通結節点の機能強化を図ります。交通モード間の連携を強化することで、幸田町全体としての公共交通の効率性を高めます。

■主要施策

- ①鉄道駅の再整備
- ②乗継改善

基本目標 2 : 町内の公共交通の見直し

幸田町が運営する公共交通(えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシー)について、役割分担・重複解消、需要に応じた運行形態の変更・サービス水準の適正化・効率化を行うことで、過剰な財政負担の増加を抑制しながら、公共交通の利便性向上、町民の生活の足の確保を図ります。

■主要施策

- ③公共交通等の再編

■成果指標

	現況値	目標値	取得・算出方法
公共交通の満足度	7.8% ^{※1}	10% ^{※2}	住民意識調査より算出
公共交通の利用者数	■えこたんバス ^{※3} ・北ルート : 9,908 人/年 ・中ルート : 9,221 人/年 ・東西ルート : 8,988 人/年 ・南ルート : 8,410 人/年 ■チョイソコこうた : 3,481 人/年 ■藤田乗合直行タクシー : 973 人/年	※有料化後に設定	町所有データより算出

※1…「公共交通の整備」に対して「満足」と回答した人の割合を計上

※2…平成31年度～令和5年度の増加トレンドを、令和9年度まで引き延ばした数値(9.7% ≒ 10%)を参考に目標値を設定。

※3…スクールバス利用も含む。

■確認項目

	現況値	取得・算出方法
3 駅の バス便数	幸田駅：18 便/日 三ヶ根駅：18 便/日 相見駅：12 便/日	町所有データより算出
運行に伴う 行政負担額	5,440 万円/年 ^{※4}	
収支率	— ※有料化後に算出	
利用者一人 当たりの費用	えこたんバス ：794 円/人 チョイソコこうた ：4,510 円/人 藤田乗合直行タクシー ：9,970 円/人	

※4…令和 4 年度の運行に伴う行政負担額の公共交通別の内訳は、えこたんバス：2,900 万円/年、
チョイソコこうた：1,570 万円/年、藤田乗合直行タクシー：970 万円/年

基本方針:まちの元気の創出支援

基本目標 3 : 企業や地域活動との連携

バス停やバス車内への広告設置や、外出支援や地域活動との連携、地域主体の取組の社会実装（坂崎コミュニティライド等）を進めることで、外出支援やコミュニティの創生を図り、まちの元気の創出を支援します。

■主要施策

- ④企業等との連携
- ⑤外出支援や地域活動との連携

基本目標 4 : 新技術の積極的活用による利便性向上

自動運転や MaaS の開発、ICT 技術の活用による効率化を積極的に推進することで、新たな活力を創出するための基盤整備を行います。

■主要施策

- ⑥タクシー助成券の決済高度化に向けた実証
- ⑦バス利用実績の収集・蓄積システムの構築
- ⑧新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

■成果指標

	現況値	目標値	取得・算出方法
公共施設の 利用者数	180,153 人/年 ^{※1}	304,865 人/年 ^{※2}	こたの統計に記載の数値 を活用
定住意向	58.1% ^{※3}	64.3% ^{※4}	住民意識調査より算出

※1…令和 3 年度の町民会館（66,249 人/年）、中央公民館（19,735 人/年）、郷土資料館（3,539 人/年）、さくら会館（7,788 人/年）、町民プール（82,842 人/年）の合計を計上

※2…コロナ禍前の実績値として平成 30 年度の実績値を目標値として設定

※3…「幸田町に住み続けたいか」に対して、「住み続けたい」と回答した人の割合を計上

※4…定住意向は減少傾向にあるため、データ取得が可能な直近 4 力年（平成 28 年度：64.3%、平成 31 年度：61.1%、令和 3 年度：59.2%、令和 5 年度：58.1%）における最高値を目標値として設定

■確認項目

	現況値	取得・算出方法
企業と連携した 取組の件数	0 件	バス停やバス車内における広告掲載や、企業バスの活用等、企業と連携した取組の件数
地域主体の取組 の件数	0 件	坂崎コミュニティライドや公共交通と連携した地域の取組の件数を計上
システムの実装 件数	0 件	タクシー助成券の決済高度化システム、バス利用実績の収集・蓄積システムの実装件数を計上

基本方針：人や地球への思いやり

基本目標 5：地球環境問題への取組の推進

公共交通の見直しと併せて、企業や学校と連携したモビリティマネジメントの実践や公共交通のPRにより、自動車利用から公共交通利用へ転換するキッカケ作りを行います。加えて、環境へ配慮した設備の導入についても検討することで、地球環境問題解決に向けた取組を推進します。

■主要施策

- ⑨モビリティマネジメントの実施
- ⑩環境へ配慮した行動の推進、設備の導入

基本目標 6：移動制約者に対する支援

公共交通の利用案内の充実やバリアフリー化の推進、移動制約者への移動手段の提供により、移動制約者の方でも使いやすい公共交通となることを目指します。

■主要施策

- ⑪公共交通利用案内の充実
- ⑫バリアフリー化の推進
- ⑬移動制約者へのタクシー料金助成の実施
- ⑭免許返納者への移動手段の提供

■成果指標

	現況値	目標値	取得・算出方法
高齢者福祉に関する満足度	4.8% ^{※1}	7.0% ^{※2}	住民意識調査より算出
障がい者福祉に関する満足度	3.5% ^{※1}	5.0% ^{※2}	

※1…総合計画各施策の満足度について、「満足している」と回答した人の割合を計上

※2…平成 28 年度、平成 31 年度、令和 3 年度、令和 5 年度の傾向から、令和 9 年時点での予測値を算出して設定

■確認項目

	現況値	取得・算出方法
モビリティマネジメントに関する取組の件数	0 件/年	企業 MM、学校 MM の実施件数を計上
広報誌での公共交通の PR 件数	0 件	幸田町広報誌における公共交通の PR 件数を計上
タクシー料金助成の利用者数	578 人 ^{※3}	町所有データより算出

※3…令和 2 年度実績の福祉タクシー（325 人）、在宅高齢者外出支援タクシー（223 人）の合計を計上